

「まことの保育」から「真宗保育」そして「仏教保育」



たかなわまさずみ
高輪真澄

プロフィール 昭和57年慶應義塾大学大学院
修士課程修了。現在、善永寺住職、保育連盟
理事長、東京教区光輪幼稚園理事長・園長。
武蔵野大学教育学部非常勤講師（仏教保育論
担当）、日本仏教保育協会常任理事、ボーイ
スカウト日本連盟副リーダー・トレーナー。

昨年度、保育連盟の理事長に就任いたしました。東京教区光輪幼稚園の園長の高輪です。宮川恵秀前理事長の方針を引き継ぎながら、保育の新時代に向かって全国の皆さんと共に、「まことの保育」を推進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

私は30年ほど前から保育連盟の若手のセミナーなどに参加して「まことの保育」について学んだり、全国の先生方と知り合いになったりしながら学びを深めてきました。そ

して10数年前より保育連盟の研修委員となり、連盟の研修に関わってまいりました。当初は「まことの保育」って何？という疑問を持ちながらも研修に参加してきました。しかし、いつもわかったような、わからないような、そんな気持ちでいっぱいでした。その頃の私は「まことの保育」とは浄土真宗の保育をすればいいということくらいしか理解できず、では実際はどうすればいいかもわからず、もやもやが晴れませんでした。

そんなときに現在進めている「指導者養成講座」を立ち上げる話があり、そのコンセプトや講義内容を考えなければならなくなりました。実はそれとほぼ同時に日本仏教保育協会から『わかりやすい仏教保育総論』の改訂の依頼があり、私が担当することになりました。私はそこで各宗派の保育、「まことの保育」そして仏教保育について学び直す機会を得ました。そこでわかったことは各宗派、そして日本仏教保育協会も保育の目標は「三帰依文」ということでした。「仏・法・僧」の三宝を大切にいくことを保育の目標にしていたのです。私たちの「まことの保育」も三帰依文から発展した「浄土真宗の生活信条」を論拠とした保育目標にしています。

もう一つ、今まで出版された「まことの保育」教材を見てもみると言葉の定義が曖昧で、混乱が起こっていたようでした。教育原理委員会が中心になって2014年に出版された『真宗の教えとまことの保育』ではこれが修正され、はっきりと「まことの保育」の理念、保育目標、ねらいそして保育課程が示されました。これは画期的なもので、今後の基礎となるものでした。これを基本として「指導者養成講座」は若手園長のための、聞いて参加してすっきりできる基礎講座として開設できました。もう一つ、夏の「まことの保育講座」で職員が抱える悩み事の中で、最近是他に比べて「まことの保育」についての悩みが減っているように感

じます。1番は人間関係、2番目は気になる子、その次に「まことの保育」についての悩みとなっています。保育者たちは決められた形を守っていればそれで良いと思っっているのではないかと危惧しています。

私たち保育連盟はもう一つ大きな特徴もっています。それは日本最大の宗派保連ということ。加盟園数は2018年10月現在970園です。大谷派は498園、浄土宗は420園、曹洞宗は354園です（2004年現在の園数）。日本仏教保育協会への加盟施設数は約1000施設です。実は各宗派保連は本願寺派を目標として、追いつけ追い越せと活動しています。だからこそ私たちは将来を見つめ、しっかりと保育を進めていきたいと考えています。

現在私たちには多くの課題があります。保育新制度、新教育要領、新保育指針、少子化、過疎過密。宗派からも子ども若者ご縁づくり、実践運動重点プロジェクトなど課題が山積んでいます。その中でややもすると保育の原点を忘れてがちになっていきます。子どもたちに「まことの保育」を通して阿弥陀さまを拜む子、ありがとうと言える子、お話をよく聞く子そして仲良くする子になってもらいたいと思います。そのためにもみんなが自信を持って、共に育ち合う「まことの保育」をすすめていきましょう。それが真宗保育へ、そして仏教保育へつながっていくのです。